

## 講演要旨

「瀬戸内海的环境再生と環境資源の継続に向けた活動」

広島工業大学 工学部 都市デザイン工学科  
環境学部 地域環境学科  
教授 上嶋 英機

広島に住む人々にとって瀬戸内海はまさに母なる海であり、地域文化の源であります。紀伊水道から豊後水道と関門海峡までの 400 km に及ぶ長さの瀬戸内海は多くの島々が存在し、潮流が織りなす豊かな海域環境と多様な景観を有し漁場生産も豊かな内海でした。しかし、この瀬戸内海は我が国の経済成長に伴って多くの環境資源を失ってきました。自然海岸や干潟、藻場など生態系豊かな場所が多く失われて景観すらも変貌しました。漁業を主体とする漁村の島々は廃墟となり、瀬戸内海の風土も大きく変化しました。

このような中で、2002年我が国では「自然再生推進法」が成立し、自然環境を再生していこうとする大きな動きが始まりました。この一環で、瀬戸内海や広島湾等を対象とした「海の再生」活動が始まりました。一方、生物多様性国家戦略が世界的に動き出し、この10月には名古屋で生物多様性条約締約国会議（COP10）が開催されます。

瀬戸内海自然环境をどのように再生していけば良いのか、多様性のある生態系をどのように再生できるか、その政策と技術は？ また、残されている豊かな環境資源を多くの人に体験し感動し、存在を知って頂き、後世に継続していくための方策と活動が必要です。

本講演では瀬戸内海自然环境の状況と、環境再生の取り組みを紹介し、更に、現在学生と取り組んでいますエコツーリズムについて紹介したいと思います。